

して、へやを明るく飾らせてみるのもいい
と思います。後方には机を一行に壁際につ
けて並べ、大工道具箱を置きます。その
他、木片を入れた箱、布切れを入れた箱、
針金、釘を入れた箱、毛糸屑・毛糸針を入
れた箱など、自由製作に必要な物を仕分けし
て入れ、整頓して、数量、品名などを箱
のふたに書入れて置いておきます。そし
て、自由に、創造力を發揮して、楽しく、

新しい学年をはじめるにあたって

一年の計画をどうつくるか

堀 合 文 子



自由製作がいつでもできるように考えてみ
ました。子どもたちの作った、自由製作品
を、中央のテーブルに並べて鑑賞すること
もいと思います。毎日帰る時には当番の
子どもが、箱のふたに書いてある品物と数
量を照らしあわせて整頓しておく、良い習
慣をつけたいと思います。

このように、各へやを幼児の発達段階に
応じて、机、その他の遊具の配置転換をお

こなしておくことが、どんなにか子どもた
ちに新鮮な喜びを与え、その成長をより助
長することが出来るのではないかと思いま
す。各へやも、色による変化で楽しい雰
囲気をつくり、豊かな情操を培うことが出来
るのではないのでしょうか。

私はこんな構想に胸ふくらませて新学期
を迎えようとしております。

(名古屋青葉幼稚園長)

教師は、新しい学年を迎えれば誰しも、反省と、希望と期待との
意気に燃える。

幼児に、いかにたくさん教えこんで幼児をりこうにさせようか、

とか、幼児をいかにして毎日たのしく過ごさせようか、と考える教師

などさまざまであろう。

これも幼児教育実際の根本の考え方の差違で、それぞれ進むところの信念があるのであるから何とも言えないが、今この新学年を迎えてこの一年の計画をたてるにあたり、この三才、四才、五才の幼児について反省し勉強する余地を持ちたいものである。

幼児心理学を読みなおして幼児の身心発達程度を再認識すること、保育内容の研究、教師自身の修養、など。

さて、実際に幼児の指導計画を立案するのだが、まず大きく考えることは、

一、自分の組の幼児に適切な計画を立てること。

もちろん、年令を考えることは言うまでもないが、園の地域、環境にも差違のあるもので、他の園の保育案をそのまま自分の園に通うことはない。参考にして自分の受持つ幼児の保育案というのが作成されなければならない。

二、幼児の生活を豊かに、たのしくするような計画を立てること。

三、年令に適當で過重高度でない計画をたてること。

教師の熱意のあらわれか(？)ともすると幼児をより高くより高く引上げ、適不適はかえりみず、むしろよりよき指導をしているかのように考えられる恐れがある。

四、幼児の発達状態を観察しながら計画を立てること。

これは計画をたてる一番根本となるものである。この考えの上に

立案された計画により、幼児は時期を得てよりよく伸張するのである。これこそ幼児のために考えねばならぬことで私ども幼児教育者が心えておかねばならないことである。

指導要項の指導案にも、保育計画は、融通性のある、中広いものを立案するのが望ましいとある。極端な論者は、幼児に対して保育計画案は必要ないとさえ言われるが、老練な保育者は別として教育者として計画なく幼児を行きあたりばったりで指導することは無責任ともなるので、計画をもって望むべきであろう。

しかし、その計画は前述のごとく融通性のある、中広いもので、何月何日、何曜日には製作「こま」、うた「はる」、お話「赤ぼじいさん」生活指導「手をあらうこと」などのように一年前または一学期のはじめに、事こまかに立案しておき、幼児の生活状態がどのようなと、幼児の発達進度がいかようであるかと計画を推行するのはよき保育とは言えないし、計画もよい計画とは言えないだろう。

幼児の幸福、幼児の生活の豊かき、幼児をたのしく生活させる、幼児の将来の芽を育てるには、それにふさわしい計画を立案するのが幼稚園教師としてのぞましいことである。

五、すべての保育内容を平均に幼児が経験するように考慮された計画を立てること。

六、融通性のある、中広い計画を立てること。

××× ××× ×××

今、受持の幼児を前におき、この一年間をいかに指導し、いかにたのしく過ごさせようかと考える時、それぞれ受持の立場があり、種々さまざまであるが、計画の一つの例として考えてみよう。

○三年保育三才児

幼稚園生活に一日も早くなれ、団体生活のたのしさを次第に味わせ、教師・友だちとよく遊び、基本的習慣を身につけさせる。

○三年保育四才児

友だち遊び、グループ遊びを盛んにし、そのたのしさを味わせ、組全体が遊べない幼児がないようにし、団体生活のたのしさを味わせ、基本的習慣を確立させると共に、表現活動への興味を誘導し経験させ、教師中心から次第に幼児中心生活へと移行させる。

○三年保育五才児

幼児自身の活動を盛んにさせ、幼児中心の生活を十分に発揮させる。表現活動その他の経験も広く経験させ、幼児の自発活動を盛んにし、教師はその活動を誘導し助力し、指導する。

△二年保育四才児

幼稚園生活に馴れ、基本的習慣を確立させながら、友だちと仲よく遊び、団体生活のたのしさを味わせ、表現活動への興味を誘導し指導する。

△二年保育五才児

幼児の友だち遊びを盛んにし、幼児の自発活動を誘導し、表現活動その他の経験も興味を誘導し、教師中心を幼児中心生活へ移行させ、十分に幼児を活動させ、教師はその経験・活動を誘導し助力し指導する。

以上、二年間なり、三年間なり一応このような大まかな方針というものを立て、その上に第一期、第二期とやや具体的な案が立てられるのが順だと思ふ。

次にその立案の例を挙げてみると、

○三才児入園児の場合、第一期

健康 幼稚園生活に必要な基本的習慣を一日も早くできるようにつとめる。

社会 幼稚園に一日も早く馴れ教師や友だちらと遊べるようにつとめる。

言語・音楽リズム・絵画製作 これは幼児が遊びに飽きた時、

幼児の遊びを豊かにさせる一つの手段として教師が与えるので製作などは幼児はできる範囲で手伝わせる程度にとどめる。

○四才児入園児の場合、第一期

健康・社会 幼稚園に一日も早く馴れ、幼稚園生活に必要な習

慣、きまりをまもるようにつとめる。

友だちと仲よく遊べるようにする。

言語

人の話をたのしんで聞くこと、態度を養い、機会を与え、日本や世界の有名童話を数多く聞かせる。

視覚よりも与え、紙芝居・テレビを利用し、話に対し興味を持たせるようにつとめる。

音楽リズム 簡単なリズムを体で表現することをはじめとし、

自分の表現をへたでも音楽にあわせて自由に表現できるようにしむける。歩くこと、かけることを音にあわせてできるように。

絵画製作 簡単な製作を教師と共に作りあげ、つくること、のしみを味わせ、興味を誘導する。この一期では友だちと遊べるようにすることが目的の第一であるので、作ること、遊びの手段とし、将来の下地を作る程度で、あまり幼児には要求しない。

○三年保育四才児第一期

(これは三才児第三期の発達状態を観察して後に立案すべきで、ただの一例に過ぎない。)

健康・社会 基本的習慣を確立させる。

友だちとよく遊ぶようになってきたので仲よくゆずり合って遊ぶようにしむける。

年少の人へも親切にするように。

今までの生活習慣を確立させる。

言語

人の話を聞くことができるようになってきたので、自分も人の前で発表できるよう機会を与えて誘導する。

音楽リズム 音にあわせて歩いたりかけたりがじょうずになってきたので、いろいろ組合わせたものもしてみる。

自由に表現するばかりでなく、既成の作品も与え幼児の表現に刺激を与える。楽器あそびへも興味を持たせ、ハンドカスタに鈴、タンブリンを加えていく。

絵画製作 絵にも興味が出て来たので、その材料を豊富に、自分の思うこと、考えることが自由に表現できるよう機会を与えたい。紙芝居などつくったりして遊びと関連させたい。つくることへも次第に興味を誘導して教師とともに一つの誘導保育を完成したい。

自然環境として教師が飼育し、設備し、幼児の興味を誘導したい。

以上年令別に一例をあげてみたが、これは内容別の第一期の方針で具体的な材料はあげてない。すなわちこのように大きい方針をきめて、第一期にはどうしてもこれをやりたいと思うもの(話や歌など)を自分の心覚えに前述のところへ書いておき、次には月案として、第一期分、大体の教師の計画をメモしておくといふ。勿論、何月

何日には何の話、何の歌というのでなく、この頃にはこのことをという融通性のあるもので、行事、季節も自からそこに加味されてくる。

一例として三年間保育二年め四才児の第一期を下段に示してみよう。

この一例はいわば教師のメモで、これも私のノートの一端に過ぎず、私の園の私の組の幼児の計画であるので一般に示すものではない。自分の頭の中にある第一期の計画を忘れないようメモしたものである。この月案はそれぞれ異なる教師が使うのであるから、もっと詳しくもなり、また詳しくなくてもよい場合もあるだろう。

健康、社会は常時教師が機会を得て指導すべきことであるので、特別に案にのせるより、教師が、すべき内容を研究し、機会をえて指導した方が実際的だと思う。

他の内容も勿論具体的にあげてないが、次にくる週案・日案とも言うべきもので具体的材料を考慮するがよい。そこで幼児の能力の程度も日頃観察でき、その上で材料選択ができるからむやみと高度のもの、あるいは低いものを与えてしまうことはないであろう。

具体的にあげられていない内容はしてないというのでなく、どこまでもメモで日常の案や保育でそこに必ず指導される。

次にくる日案の例。

四月第二週

13日(月)・お話(赤ぼじいさん) ・年少組へおみやげ(花かご)作り

4月 9日(木)入園式始業式

- 10(金) } 今までの習慣・約束を
} 思出して確立する
- 15(水) } たねまきをする
- 18(土) } 年長組になって、
- 20(月) } 年少組をむかえて、
- 25(土) } 年少組におみやげを作ってあげる。
- 27(月) } 友だちと仲よく、遊具もゆずり合っ
} て使うように。
- 29(水) } 「はる」にちなみいろいろ考える。
- 2(土) } つみ草、散歩へいき自然としたりむ
- 5(月) } 子どもの日のため仕度をする
- 7(水) } 天皇誕生日で休園
- 9(金) } 幼稚園の子どもの日のあつまり
- 11(土) } 子どもの日で休園
- 13(月) } おかあさまの日にちなみ考える
- 15(水) } おかあさまの日にちなみいろいろ考える
- 17(金) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 19(土) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 21(月) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 23(水) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 25(金) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 27(土) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 29(月) } 遠足にちなみいろいろ考える
- 31(水) } 遠足にちなみいろいろ考える

- 15(金) 遠足
- 16(土) } 絵画に対して興味を持たせるよう誘
} 導
- 20(水) } 種々の角度より絵画へ興味をむける
- 22(金) } 保護者会で休園
- 24(土) } 保護者会で休園
- 26(月) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 28(水) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 30(金) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 1(土) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 3(月) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 5(水) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 7(金) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 9(土) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 11(月) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 13(水) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 15(金) } 時計を作り時計に関心を持たせる
- 17(土) } 時計作り遊び
- 19(月) } 部屋で遊ぶ時の約束を話合う。
- 21(水) } 楽器あそびに力を入れる。
- 23(金) } 魚釣り遊び完成
- 25(土) } (お客様を呼んであそぶ)
- 27(月) } 七夕さま
- 29(水) } (保育時間短縮になる)
- 31(金) } 戸外で遊ぶ時の約束を話合う。
- 1(土) } 砂場あそび粘土あそびを盛んにさせる。
- 3(月) } 砂場あそび粘土あそびを盛んにさせる。
- 5(水) } 砂場あそび粘土あそびを盛んにさせる。
- 7(金) } 砂場あそび粘土あそびを盛んにさせる。
- 9(土) } 夏休みの間の約束を話合う
- 11(月) } 夏休みの間の約束を話合う
- 13(水) } 夏休みの間の約束を話合う
- 15(金) } 夏休みの間の約束を話合う
- 17(土) } 夏休みの間の約束を話合う
- 19(月) } 夏休みの間の約束を話合う
- 21(水) } 夏休みの間の約束を話合う
- 23(金) } 夏休みの間の約束を話合う
- 25(土) } 夏休みの間の約束を話合う
- 27(月) } 夏休みの間の約束を話合う
- 29(水) } 夏休みの間の約束を話合う
- 31(金) } 夏休みの間の約束を話合う
- 1(土) } 第一期終業式

14日(火)・リズム(年少組と一しよに)はるのリズム遊び)・年少組

へおみやげ(こま)作り。

15日(水)・うた(ちようちよう(新)粘土あそび(自由)

16日(木)・リズム(花つみのリズム遊び)・一のリズムを加える。

17日(金)楽器あそび(ハンドカスタ・鈴を使う)・紙芝居またはテレビ。

18日(土)花かご作り。(出来たら草つみにいく。)

このように週案が出来たとき、次の日を迎える私どもは、次の日のこれこそ事こまやかな日案が考えられなければならない。

例えば明日はリズムと製作とあれば、リズムの指導内容を順をおって記しておく。製作はもちろん必要な材料をそろえておく。これは言うまでもないが、朝から帰りまで一応一日の流れの計画予定案を考えておかねばならない。

次はその計画が実際につながるのだが、その中にはすべての内容が機を得て経験し、指導されてくるのである。このように大きい計画から事こまかい計画も、融通性のある、中広いものでなければならぬので考え方によれば、文字に表現することは実にむずかしい。しかしその教師の頭の中には計画はあるものでまたなければならず、幼児の計画を文字にするのはむずかしいことであるが、これが意味あることなのである。

さて、最後に、このような巾広い、融通性のつきすぎる保育案で不安定でもあり、また事こまかに立案しないのは不親切と考えられるかもしれないが、幼児期の子どもを、現在も、将来も幸福にする案はいずれかと考えたい。事こまやかに立案しないと気がすまないなら週案・日案で事こまかに、それも一年先、一月先まで幼児の日常の運命を決めてしま

わなないで、幼児の日常の生活をよく観察してその幼児に適切なる案を立てたら、幼児はどんなにたのしい毎日幸福生活であろう。幼児期の子どもというものをもう一度ふり返ってこの一年の計画をたてたものである。

(計画も大事だが後の記録がより大事で、次の計画の基をつくるとの信念からの一例である。参考までに。)

付 中心として指導することを目標とする内容を年令別に計画したグラフ

	3才児	4才児	5才児
第一期	社会・健康	絵画	言語
第二期	社会・健康	製作	音・リ
第三期	社会・健康	音・リ	言語

(但し四才五才は、社会・健康が各期とも加味される)